

# Case 19

## 「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」を軸に 社員主体で推進する脱炭素経営

### 1. 主な取組と効果

- ・「**CO<sub>2</sub>を食べる自販機**」が事業活動に様々な形で寄与！
  - ➡営業活動等に役立てるため**脱炭素アドバイザー**の資格取得を支援！
  - ➡「脱炭素」という付加価値が**新規取引先の獲得**に貢献！
- ・資格取得者が社外向けにGXセミナーを開催し、**知名度や認知度が向上**！

脱炭素アドバイザー

社外GXセミナーの開催



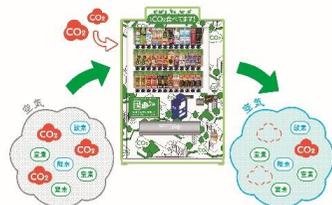
**有資格者  
13名**

**開催数: 3回  
参加者数: 248名**



社外向けセミナーの様子

### 2. 取組の経緯



※CO<sub>2</sub>を食べる自販機  
内部にCO<sub>2</sub>を吸収する特殊材を搭載した自動販売機。1台当たりのCO<sub>2</sub>年間吸収量は、スギ(林齢56~60年)約20本分に相当する。

①知る

②測る

取組の経緯

- 東日本大震災津波で沿岸地区の支店が大きな影響を受けたことから、環境・生活と自然災害の関連性を強く意識するようになった。このような状況の中で、令和2年の現社長就任を機に、「**SDGsプロジェクト**」を開始したことで**取組が加速**。
- 「**脱炭素アドバイザー**」有資格者による社内GXセミナーを開催し、**社員の意識と知識を向上**➡**社外GXセミナー**開催へと発展。
- 社員一人一人の脱炭素に関するアンテナが高まり、取引先や各情報媒体等から**自主的に情報を取得**するようになった。

※脱炭素アドバイザー  
企業の脱炭素化に向けた取組に関して専門的なアドバイスができる知識・ノウハウを環境省認定の資格によって取得した人。

③減らす

取組の内容

- 「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」の設置拡大。
  - ➡令和6年から設置を開始し、これまでに計**518台**を設置(**31t/年**のCO<sub>2</sub>削減効果)。
- 太陽光発電設備の導入、省エネ対策(LED化、遮熱シートの施工等)を実施。
  - ➡**電気使用量27%、電気料金14%**を削減。
- 各社員が収集した情報を基に、CO<sub>2</sub>削減に向けた提案が行われている。
  - ➡トップダウンに加え**ボトムアップの改善提案も活発化**しており、社員の**行動変容**につながっている。

④メリット

取組によるメリット

- 「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」の付加価値(=脱炭素)で新たな設置先を獲得。➡**優位性の構築**。
- 「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」を通じた企業PR、社外セミナーの実施による地域貢献。
  - ➡**認知度・知名度向上、人材獲得力向上(採用応募者215%増加)**。
- 社員からの主体的な提案を実際の取組に反映。
  - ➡**社員のモチベーション向上**。

本事例では  
・脱炭素に資する商品  
・脱炭素アドバイザー  
を活用したよ！



事業者名:株式会社ミチノク(卸売業・小売業)



- ◆業種 自動販売機による小売業
- ◆住所 奥州市水沢工業団地三丁目84番地
- ◆TEL 0197-25-7760
- ◆従業員数 150名
- ◆事業概要  
自動販売機による清涼飲料水の販売  
自動販売機の修理、メンテナンス等
- ◆URL



<https://www.dydo.co.jp/group/michinoku/index.html>

(事業者の声) 株式会社ミチノク 代表取締役社長 住吉 啓史 様

当社は令和2年に、社員が主体となって推進するSDGsプロジェクトを立ち上げ、地域社会とともに持続可能な未来の実現に向けた取組を進めてまいりました。

その一環として、脱炭素経営の推進や環境負担軽減に向けた設備投資を積極的に実施し、近年では「CO<sub>2</sub>を食べる自販機」、さらに、資格取得者である「環境省認定 脱炭素アドバイザー」が、小学校向けの環境学習や企業向けセミナーを開催し、次世代境域の支援や地域企業の脱炭素化に貢献しています。

こうした「社員主体の環境への貢献活動」を軸に、地域と共に歩む企業として、これからも持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

